



営農情報

「あまおう」4月の管理

第106号 令和3年4月5日

南筑後・久留米普及指導センター
福岡大城農業協同組合

10a 当たり収量 5t 以上を目指しましょう

1 生育状況

3月上旬から3番果房の出荷が始まり、現在、3番果房の出荷は中盤～終盤となっています。4番果房は3月上～中旬より出蓄が始まっており、早いほ場では4月上旬から収穫が始まる見込みです。3月中旬までのJA福岡大城の実績は、出荷量109%、単価97%、金額106%（昨年比）となっています。

病害虫に関しては、ハダニ類、アブラムシ類の多発ほ場がみられます。また、アザミウマ類の発生も増加しているため、適切な防除を心がけましょう。

春先の高温による影響で親株での心葉の動きが早く、ランナーが発生しているほ場も見受けられます。次年度産に向けて採苗が遅れないよう、早めの作業を心掛けましょう。

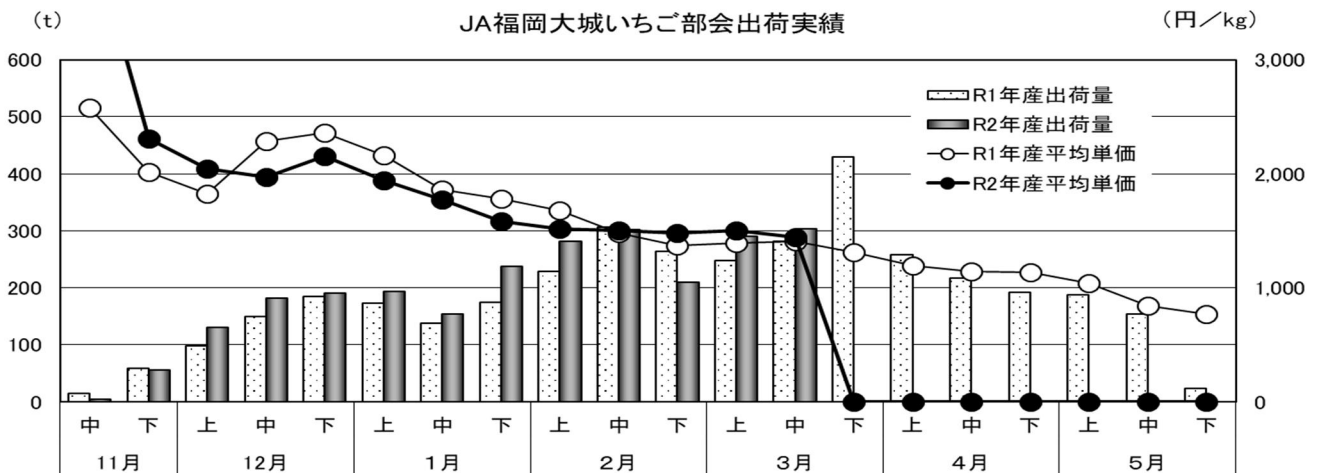


図1 JA福岡大城のイチゴ総出荷量と平均単価の推移

2 気象予報と今後の見通し

(1) 気象予報

福岡管区気象台が発表した1か月予報は下図のようになっています。

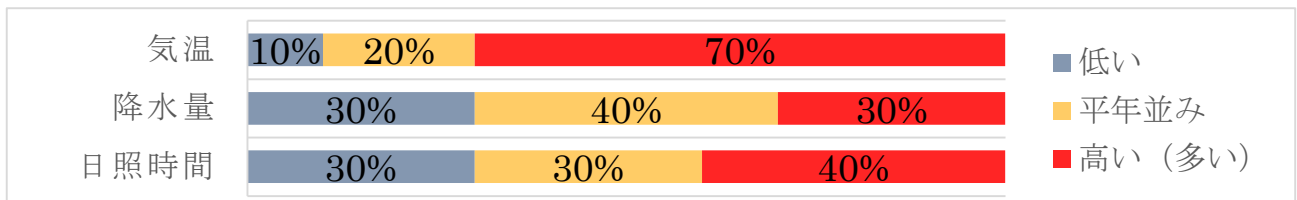


図2 1か月予報 (九州北部地方 予報期間：3月27日～4月26日 発表日3月25日)

(2) 今後の見通し

天気は数日の周期で変わり、期間の前半は特に気温が高くなる傾向となっています。ハウス内が高温になり乾燥するとハダニ類の発生が増加する可能性が高くなります。また、親株床が乾燥すると、ランナーの発生遅延が懸念されます。

3 今後の管理

<ポイント>

◎ハダニ類の防除

気温上昇と乾燥でハダニ類の発生が増加する4月上旬までに防除を行いましょう。

◎傷み果対策

春先の気温上昇に伴い、果実の傷みが発生しやすくなります。玉出し、温度管理やかん水管理など品質保持対策に取り組みましょう。

◎親株管理・育苗準備

充実した苗を作り、親株からの炭そ病感染を防ぐためにも、採苗時期が遅れないようにしましょう。適期の親株管理（かん水・追肥・防除など）、育苗準備は計画的に、早めの作業を行いましょう。

(1) 温湿度管理

- ・晴天日はサイド・谷・妻面の換気を早朝から行い、低温で管理する。
- ・夜温7℃以上の日は、夜間もハウスを開放したままにする（雨天日を除く）。
- ・降雨時は、雨が降り込まない程度にサイドや妻面での換気を行い、湿度を下げる。

表1 ハウス内の温度管理の目安

午前	午後	夜間
18℃	18～20℃	5℃（夜温7℃以上は開放）

(2) かん水

- ・1回当たりのかん水量が多いと、収穫時の果実傷みの原因となるため少量で回数を多く行う。
- ・かん水後にpF値1.7～1.8を目標に行う（朝、心葉が葉つゆをうたないようであれば土壌が乾燥している）。
- ・果実品質維持のため、収穫直後にかん水する。
- ・水分不足は、果実肥大不足や乾燥によるハダニ類の多発要因となりやすいので注意する。

(3) 株整理

- ・収穫が終了した果梗は、傷果防止と次果房の出蕾促進のため速やかに除去する。
- ・生育が旺盛になるとランナーが多く発生するので随時除去する。
- ・黄化葉や枯死した下葉は除去する。

(4) 果実の日焼け果・煮え果

- ・曇雨天日が3日程度続いた後の晴天日には、果実からの蒸散に水分供給が追いつかないので果実の日焼け果、煮え果が発生しやすい。
- ・曇雨天日後の晴天日は遅れないように換気を行い、急な温度上昇を防止する。

(5) 軟果・傷み果対策

- ・果実に光が当たるように、随時玉出しを行う。
- ・収穫遅れによる過熟を防止するため、部会の着色基準に従って収穫する。
- ・収穫は高温時を避け、収穫箱内での果実の積み重ねを行わない。

- ・収穫後は速やかに予冷し、果実を2時間以上予冷庫で冷やした後に、パック詰めを行う。
- ・収穫後の少量多回数かん水に努める。
(土壌水分の目安はpFメーターで1.7～1.8、軟果が多い場合は2.0程度)
- ・遮光資材(寒冷紗、塗布剤)を活用し、ハウス内の温度上昇を抑える。

(6) 病虫害防除

① ハダニ類

- ・下葉の除去後、葉裏や葉縁に十分薬液がかかるように丁寧に散布する。
- ・ハダニの多発した株は、特に強めに下葉を除去した後に防除をする。もしくは株ごと除去してハウス外に持ち出す。
- ・下葉の除去をしたあとの残渣は、ハウス内に放置しない。
- ・気門封鎖型薬剤の卵に対する効果はほとんど無いため、気門封鎖型薬剤は5～7日おきに複数回散布を行う。

② アザミウマ(スリップス)類

- ・ハウス周辺からの飛び込みで、サイド側や妻面付近に発生しやすいため注意する。
- ・ハウス周辺の雑草からハウス内に侵入するため、ハウス周辺の除草を行う。

③ うどんこ病

- ・夜温が上昇し、生育が軟弱徒長気味になると発生が多くなる。
- ・電気加熱式くん煙器の活用や、定期的な薬剤散布による予防に努める。

④ 灰色かび病

- ・多湿条件で発生が増加するため、曇雨天の前などは予防的に薬剤散布を行う。
- ・発病後は、早急に被害果実を取り除き薬剤による防除を行う。
- ・サイドや妻面での換気や循環扇を活用し、ハウス内の湿度を下げ、結露を抑える。

(7) 親株管理

① 株の整理

- ・親株の負担を軽くするため、不要な下葉および果梗(花蕾)は早めに除去する。
- ・マルチの隙間から出た親株周辺の雑草は、手作業で除草を行う。
- ・異常な葉(奇形葉)のある親株は除去する。
- ・萎黄病や疫病の疑いがある株を見つけたら、速やかにJA又は普及指導センターに連絡する。

② かん水・施肥

ランナー発生期の4～5月に乾燥すると、採苗時期の遅れや採苗本数が少なくなるのでかん水を行う。

- ・プランターやポットは乾燥しやすいため、こまめにかん水を行う。
- ・土耕ほ場では排水対策用の溝を整備する。
- ・プランターやポットの場合は、4月上旬までにIB化成S1号を1株当たり5粒、5月上旬までに1株あたり5～10粒の追肥を行う。ロング肥料の場合は、1株当たり10g程度(窒素成分で1.3g程度)の追肥を行う。

③ 病虫害防除

- ・炭そ病の防除は、7～10日おきに定期的に行う。
- ・ハダニ類の発生が見られたら、速やかに薬剤防除を行う。

トピックス：ミツバチがきちんと飛んでいるか確認しましょう

イチゴ栽培では、花粉交配用にミツバチが使用されますが、適切に使用しなければ様々な障害が発生します。ミツバチにとって快適な環境を作り、適度に訪花しているか確認しましょう。

● 訪花不足による不受精果



<症状>・花粉が雄蕊に残っており、花をたたくと花粉が落ちる

<対策>・曇雨天が続いた場合は、翌晴天日はミツバチの訪花日とし、翌々晴天日を防除日とするなど、防除のタイミングに注意する



図3 ミツバチ訪花日と防除日の関係（2015年4月1～10日の日照時間）

● 過剰訪花による不受精果



<症状>・イチゴの花弁や花柱が傷み、黒変している

・葯ごとなくなっている花が観察される

<対策>・ハウスから巣箱を離す

～農薬の安全使用を徹底しましょう～

- ① その農薬に適用のない作物には使用しないこと
- ② 定められた使用量または濃度を超えて使用しないこと
- ③ 定められた使用時期を守ること
- ④ 定められた総使用回数以内で使用すること
※農薬名が異なっても成分が同じであれば使用回数に含まれます
- ⑤ 使用方法を守ること
※常温煙霧器は使用方法が常温煙霧となっている農薬しか使用できません